

陳 情 文 書 表

令 3 陳 情 第 1 1 号	令 和 3 年 8 月 2 0 日 受 理
件 名	若者の地元愛の醸成を図るために、時代に合った情報発信の充実につながるPR方法や魅力を身近に感じるための環境づくりを求める陳情
陳 情 者	秦野市曾屋773-1 学生団体E4 代表 齋藤 初依
陳 情 の 要 旨	
<p>平成30年度の市民意識調査の結果、全体平均では「市外に転居したい」が10.1%だったのに対し、16～19歳の回答では29.8%で平均よりも転出傾向が強い結果でした。若者世代にまちへの愛着と誇りを持ってもらうことが持続可能なまちづくりを進める上で重要です。しかし、秦野市で展開しているPRコンテンツが若者にあまり浸透していないため、まちの魅力を知らずまちへの興味、関心が薄い若者がたくさんいる現状があります。また、秦野市は4駅にまたがり、多くの魅力あるまちの資源はさらに駅から遠くにあることで親しみを感じる事が難しいと考えます。魅力を知ることができても身近に感じる事ができないと誇りは持てないと思います。そこで、今後まちの魅力を若者に伝えるためのSNSの活用方法の見直しを提案し、身近に感じるための仕組みづくりを提言したいと思います。</p> <p>まず、今あるSNSコンテンツを若者に導入する必要があると思います。我々の住むまちには多くの魅力があり、それを活用したイベントや事業も数多くあります。現状はホームページやSNSにそれらを伝える魅力的な投稿はなく、そもそも秦野市のアカウントがあるということを若者は知らないためPR活動を行っているようで周囲に全く認知してもらえていないと考えます。そのため、今ある特設ページなどを若者向けのステーションとして活用し、まちの魅力やイベントなど秦野市が若者へ伝えたいことを若者の目線で発信し、SNSでは「#(ハッシュタグ)」によるアカウント、場所などのタグ付けで多くの人にPRをしてもらえるような仕組みを作ることで、若者のコンテンツ参加を可能にできると考えます。</p> <p>さらに、SNSの活用に加え、PRコンテンツを知ってもらうための機会</p>	

を作るべきだと思います。そこで、秦野市が企画するイベントや事業により多くの若者を呼び込むために、若者のための企画を強化してそれをコンテンツで配信したり、秦野の「映えスポット」を新たに発見できるような企画を開催することで、多くの若者にまちのコンテンツを知ってもらえる機会になります。また、若者の意見を活発に取り入れることができる仕組みを作ること、まちに新たな魅力を作り出すことにもつながると考えます。

若者がまちの魅力を実際に身近に感じなくてはまちに愛着や誇りを持つことは困難です。公共交通を利用するためのお金が掛かってしまい、身近に感じるできません。そこで、公共交通の利用を促進するための環境の整備が必要と考えます。

陳情事項

- 1 秦野市が企画する秦野たばこ祭や秦野丹沢まつりなどのイベントに若者の意見を取り入れる仕組みを作してほしい。
- 2 若者が秦野の魅力を身近に感じるため、若者に対する公共交通の区間・期間限定などの運賃割引サービスやコミュニティバスを運行してほしい。